

## 1 令和3年産大豆「高品質・多収栽培」のポイント

- ・作付ほ場の団地化（周囲水遮断）
- ・排水対策の徹底（周囲明きよ、弾丸暗きよの施工）
- ・碎土率（直径2cm以下の土塊割合）を70%以上とするていねいな耕うん作業
- ・種子消毒、は種後除草剤散布の徹底
- ・中耕・培土の2回実施
- ・干ばつ時のかん水対策の実施
- ・開花期以降の基幹防除、子実害虫防除の徹底
- ・適期収穫の実施

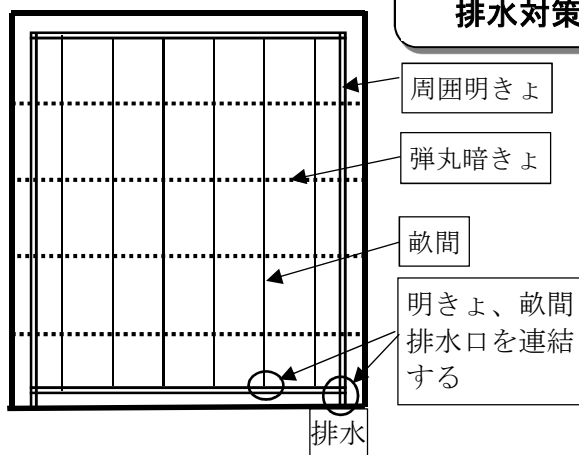
目標収量  
180kg/10a  
目標品質  
2等級以上60%

【参考】村上地域における大豆の検査状況 岩船の作物「岩船地方における稲作概況」より

年度・品種名		検査数量 (個/30kg)	等級比率(%)				
			1等	2等	3等	合格	規格外
R2	エンレイ	2,733	—	—	9.6	85.5	4.9
	里のほほえみ	2,421	—	21.2	34.7	44.3	0.2
	あやこがね	442	—	57.0	40.3	2.7	0.0
	合計	5,596	—	13.5	22.9	61.1	2.5
R1 (全品種)		7,193	5.8	22.7	40.4	29.9	1.2
H30 (全品種)		7,544	0.6	10.4	48.7	39.0	1.3
H29 (全品種)		12,952	10.4	24.8	45.0	16.9	2.9
H28 (全品種)		14,004	9.3	19.0	51.2	19.9	0.5

## 2 排水対策の徹底

排水対策のイメージ

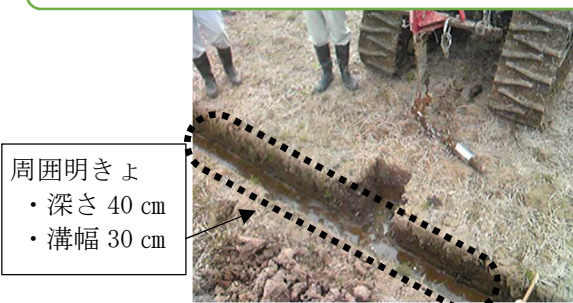


- 排水対策の徹底が、多収獲に直結します！
- 降雨後の表面停滞水を1日以内に排水出来ていないところは排水対策が不足しています！

### 排水対策のポイント

- ① ほ場周囲に明きよを掘り、排水口に確実につなげる(溝幅20~30cm、深さ30~40cm)。
- ② 弾丸暗きよは深さ30~45cm、間隔は透水性の悪いほ場では2~3mおきに施工し、透水性が良いほ場では間隔を広げる。
- ③ 畝立て同時は種を導入する。

### 周囲明きよ及び弾丸暗きよの施工例



### 排水の悪い事例



### 3 種子消毒

- (1) 種子消毒により、ネキリムシ類、タネバエ、苗立枯病、紫斑病などを適切に防除しましょう。
- (2) クルーザーMAXXを使用する場合は、キヒゲン R-2 フロアブルの処理は不要です。

薬剤名	希釈倍率	使用時期	処理方法	散布液量	本剤の使用回数	対象病害虫	使用目的
クルーザーMAXX	原液	は種前	塗抹処理	乾燥種子 1 kg あたり塗抹量 8 ml	1 回	茎疫病、紫斑病、白絹病、苗立枯病(ピシウム菌)、リヅクニア根腐病、黒根腐病、アブラムシ類、フタズビヒカムシ、ネキリムシ類、タネバエ	ハ・ギバトによる種子食害回避

- ・農薬は、農薬使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬を使用する際は最新の登録状況を良く確認し使用しましょう。
- ・農薬は、令和3年4月21日現在の登録状況により掲載しています。



### 4 施肥

- (1) 大豆は多量の窒素を必要とするため、根粒からの窒素供給が重要です。根粒菌は酸性を嫌うため、ほ場に応じた酸度矯正を行いましょ。
- (2) 基肥成分量は、10a 当たり窒素 1.5～2.5 kg、リン酸 6～8 kg、カリ 6～8 kgを目安に施用しましょ。
- (3) 収量水準が低いほ場や、排水不良で初期生育不良となり収量・品質低下が予想されるほ場では、追肥分の緩効性窒素が配合された肥料を活用し、収量・品質向上を目指しましょ。

	資材名	施用量(kg/10a)	成分率(%) N-P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> -K <sub>2</sub> O アルカリ分(CaO)	成分量(kg/10a)			
				N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	アルカリ分
酸度矯正 土壌改良	粒状苦土炭カル(M-10)	130	アルカリ 55	—	—	—	71.5
	ケイカル(粒状)	160	アルカリ 45	—	—	—	72.0
	70 粒状石灰	100	アルカリ 70	—	—	—	70.0
基肥	ニュー大豆 800	20	8-30-20	1.6	6.0	4.0	—
	有機入り大豆配合 2号	20	8-12-14	1.6	2.4	2.8	—
緩効性 窒素入り	ワンタッチ大豆	40	19-15-16	7.6 (緩効N 6.0)	6.0	6.4	—

### 5 耕うん、は種

- (1) 排水対策を早め実施し、ほ場をよく乾かしましょ。
- (2) 排水不良、重粘土質ほ場は、できる限りほ場が乾いた条件の良い日に耕うんを行いましょ。
- (3) 耕うん・砕土・整地の作業は、連続作業で行う(耕うん後に雨が降るとほ場が乾きにくくなります)。
- (4) 作業は速度を落とし、耕うんピッチを下げて作業しましょ(1回の耕うんで細かくすることが効果的です)。は種時期と栽植密度は下表を参考に適切に行ってください。
- (5) 「里のほほえみ」は、種子が大きいので大粒用のは種目皿等を使用しましょ。
- (6) 表層の砕土が荒く、は種後に晴天が続くと予想される場合は、は種深をやや深めにしてください。

#### は種時期とは種密度の目安

は種時期	5月末～6月10日	6月11～20日
エンレイ	9～10粒/m <sup>2</sup>	13～18粒/m <sup>2</sup>
あやこがね	13～15粒/m <sup>2</sup>	16～19粒/m <sup>2</sup>
里のほほえみ	13粒/m <sup>2</sup> (6月からは種)	



### 6 雑草対策

- (1) 耕起前の雑草が多いと、出芽・苗立ちの低下を招くことがあります。あらかじめ枯殺しておきましょ。
- (2) 耕起前に茎葉処理剤を散布するときは、周辺の水稲に飛散しないよう注意しましょ。
- (3) は種後の除草剤は効果を安定させるため、は種直後、土壌が乾燥する前に散布しましょ。
- (4) 前年、難防除雑草の帰化アサガオ類が発生したほ場は、効果の高い除草剤と中耕・培土を組み合わせた体系防除を実施しましょ。